

## 会社情報

会社の概況 (2024年3月31日現在)  
商号 ソースネクスト株式会社  
英文社名 SOURCENEXT CORPORATION  
設立年月日 1996年8月2日  
本社所在地 〒105-7133  
東京都港区東新橋1丁目5番2号  
汐留シティセンター 33階  
資本金 3,703百万円  
従業員数 単体131名(臨時8名含む)  
連結166名(臨時8名含む)  
事業内容 パソコン・スマートフォンソフトウェアおよび  
ハードウェア製品の企画・開発・販売

### 役員の状況 (2024年3月31日現在)

代表取締役会長 兼 CEO(最高経営責任者) 松田 憲幸  
代表取締役社長 兼 COO(最高執行責任者) 小嶋 智彰  
取締役 兼 CSO(最高販売責任者) 藤本 浩佐  
取締役 兼 CFO(最高財務責任者) 青山 文彦  
社外取締役 久保利 英明  
社外取締役 安藤 国威  
社外取締役 中井戸 信英  
社外取締役 大上 有衣子  
常勤監査役 廣瀬 正明  
社外監査役 小林 哲也  
社外監査役 木南 麻浦

### 株式の状況 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数 361,120,000株  
発行済株式の総数 136,358,300株  
株主数 54,702名

## 企業理念

社名の意味  
「次の常識をつくる」

ソースネクスト株式会社 最高戦略

ミッション  
製品を通じて、喜びと感動を、  
世界中の人々に広げる

ビジョン  
世界一エキサイティングな企業になる

エキサイティングの3条件  
正しい、喜ばれる、面白い

バリュー  
お客様の声を聞く  
新しい市場を創る  
挑戦を楽しむ

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人  
及び特別口座の口  
座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人  
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)  
〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  
☎ 0120-782-031

(インターネットホームページURL)  
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

(株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について)  
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更などのお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

(特別口座について)  
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 電子公告の方法により行ないます。  
(<https://www.sourcenext.com/>)  
ただし、やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

証券コード 4344  
上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

  
www.sourcenext.com

ソースネクスト株式会社  
〒105-7133  
東京都港区東新橋一丁目5番2号  
汐留シティセンター33階

●Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標もしくは登録商標です。  
●その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。



# ソースネクスト株式会社 2024年3月期事業報告書

2023年4月1日 ~ 2024年3月31日



## 次の、うれしい♪



## ポケットークを グローバルに展開



代表取締役会長 兼 CEO

松田 憲幸

代表取締役社長 兼 COO

小嶋 智彰

平素より当社をご支持いただいている皆様に心から御礼申し上げます。  
当連結会計年度の実績につきまして、ご報告申し上げます。

主力製品であるAI 通訳機「POCKETALK (ポケットーク)」は、インバウンド需要の拡大や今後のさらなる需要回復への期待により、家電量販店チャネルを中心に前期比で売上高が46.7%増加しました。海外市場においても、特に米国において、非ネイティブに向けた多言語対応需要により教育機関、医療機関、公共機関、その他企業で導入が拡大しており、当社孫会社であるPOCKETALK Inc. (米国) では、2024年2月度に営業利益単月黒字化、同社の第1四半期にあたる期間(2024年1月から3月まで)において営業利益四半期黒字化を達成しております。

その他のIoT製品につきましては、文字起こしAI「AutoMemo (オートメモ)」の累計アカウント登録数(本サービスを利用する有料・無料会員合計)が2024年4月末時点で140,000を突破し、サブスクリプション型テキスト化サービスの会員数も順調に増加しております。また、360度webカメラシリーズは法人のお客様からの需要を獲得し、前期比で売上高が増加いたしました。

これらの結果、当事業年度の単体業績につきましては、営業利益が黒字化いたしました。また、当連結会計年度につきましては、売上高が113億34百万円(前期比9.5%増)となりました。一方で、当社直販サイトを新システムへ移行することに伴う業務委託費の一時的な増加や、連結子会社であるポケットーク株式会社の今後の事業拡大のための人件費の増加等が影響し、親会社株主に帰属する当期純損失は21億69百万円(前期親会社株主に帰属する当期純損失23億3百万円)となりました。

配当につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。前期に引き続き大変厳しい決算となりましたこと、皆様には深くお詫び申し上げます。

当社は、1996年の創業以来、「製品を通じて喜びと感動を世界中の人々に広げる」をミッションに、お客様のニーズや時代に合わせ、パソコンソフトからIoT製品まで、事業領域を拡大してまいりました。

これからも、「次の、うれしい!」を感じていただける製品を、スピード感を持ってご提供するべく、製品の企画・開発に注力するとともに、収益の改善に向けて全力を尽くす所存でございます。

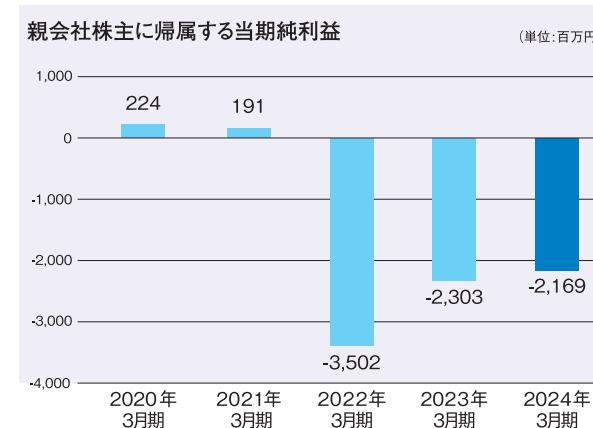
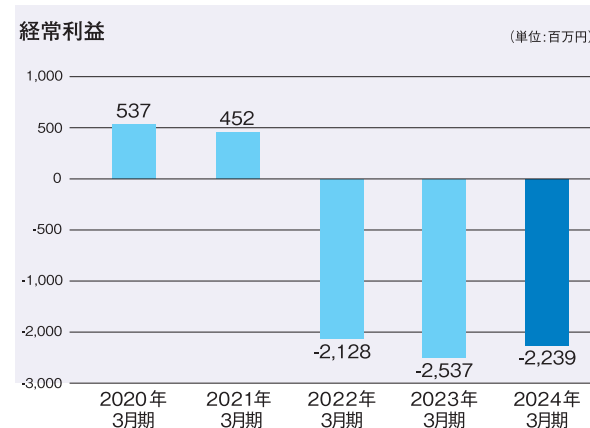
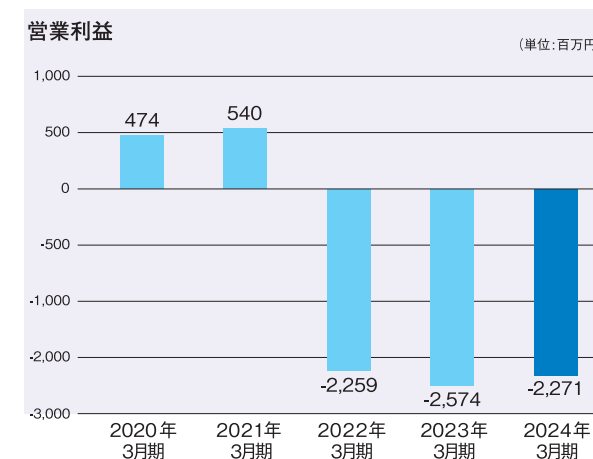
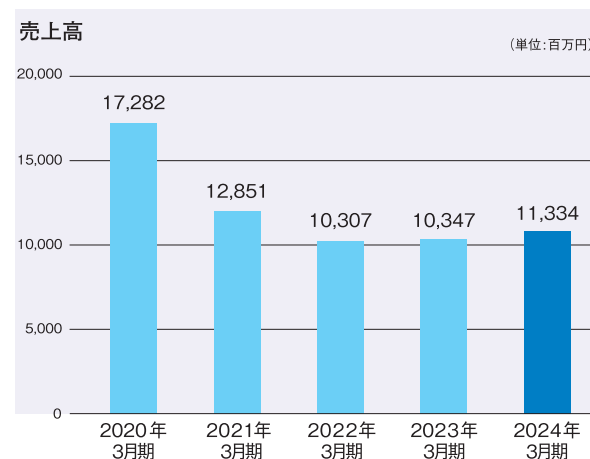
皆様のより一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月

## 連結業績ハイライト

### 決算のポイント

- ・売上高は前期比9.5%増加。ポケットーク事業拡大のための戦略的投資や新システム移行に係る一時的な販管費増があったものの、原価低減の取り組み等が奏功し、経常損失は前期から縮小
- ・ソースネクスト単体では営業利益41百万円と、黒字化を達成(前期営業損失6億55百万円)



言葉の壁をなくす

AI通訳機「ポケットーク」は、言葉の異なる相手と互いに自国語のままに対話できるIoT製品。2018年の開発以来、語学機能の搭載、ハンズフリー化、多言語間での同時チャット、リモート会議などで利用できる同時通訳ソフトの開発など進化を重ねてきました。

2022年2月には「ポケットーク株式会社」を設立し、ポケットークの事業を簡易新設分割により、当社の完全子会社としました。「言葉の壁をなくす」という事業ミッションの実現の加速を図っています。

POCKETALK

ポケットーク株式会社の米国法人が初の四半期黒字化を達成



学校・教育機関における「ポケットーク」端末の導入加速が牽引

移民が多く、公共サービスの多言語への対応が必須条件である米国市場では、特に昨今教育機関でのニーズが急拡大し、AI通訳機「ポケットーク」および、ポケットーク端末を一元管理できるコンソール「Ventana(ベンタナ)」のサブスクリプション収益が売上を牽引しています。対前年同期比で2.2倍の伸びを実現し、四半期業績で初となる営業利益の黒字化を達成しました。

AI同時通訳「ポケットーク ライブ通訳」



「ポケットーク ライブ通訳」は、相手の話す言葉を自国語に翻訳し、音声とテキストで理解でき、まるで専属の同時通訳者がいるように相手の話がわかるサービスです。ウェブブラウザ上で使用でき、インターネット接続が可能なスマートフォンやパソコン、タブレット端末で使用できます。

ChatGPTの開発元、OpenAI社の音声認識技術を採用

本製品はOpenAI社が開発するジェネレーティブAIの音声認識モデル「Whisper」を採用。音声認識の精度だけでなく、発話タイミングを判定する正確性もさらに向上しました。同社は、ChatGPTのリリース以降、世界中で大きな注目を集めている人工知能(AI)の開発会社です。

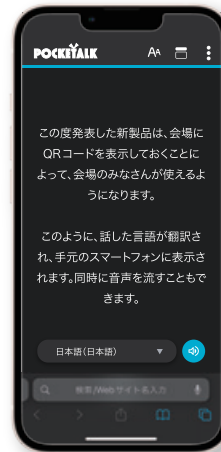
ブラウザ版を提供開始

本製品は2023年11月にwebブラウザで使う仕様に変更を実施しました。それにより、ソフトウェアのダウンロードが不要となり、パソコン以外のデバイスでも簡単に使い始められるようになりました。

双方向コミュニケーション機能(特許出願中)を追加

さらに2024年3月には、自動で言語を判別し、毎回、言語を選ぶことなく双方向のコミュニケーションができる新機能をリリース。「ポケットーク ライブ通訳」の利用開始時に選択した2つの言語のうち、ユーザーがどちらの言語を話したかを音声認識AIが自動で判別し、他方の言語に翻訳されます(特許出願中)。これにより利用シーンも大幅に拡大し、特に対面でのコミュニケーションがさらに円滑化します。

2つの新サービスを提供開始



AI同時通訳「ポケットーク カンファレンス」



本製品は、講演イベントなどで利用できる同時通訳システムです。多言語での会議をAIが通訳します。聞き手側はソフトウェアのインストールが不要で、自身のスマートフォンから専用サイトにアクセスするだけで使えます。

動画を簡単にグローバル化 AI字幕「ポケットーク ムービー翻訳」

本製品は、制作された動画に対して、翻訳された字幕と音声を追加できるサービスです。マニュアルの多言語化などに役立ちます。



「ポケットーク ライブ通訳」「ポケットーク カンファレンス」「ポケットーク ムービー翻訳」は、主要10言語から74言語へ通訳できます。

AI通訳機「ポケットーク」



おかげさまで出荷台数 **100万台突破**

2017年12月～2022年12月13日/  
初代「ポケットーク」、  
「ポケットーク W」、「ポケットーク S」および  
「ポケットーク S Plus」でサンプル等除く

「ポケットーク」は、74言語を音声とテキストに、11言語をテキストに翻訳できるAI通訳機です。新型コロナウイルス対策の緩和によるインバウンド需要の増加を背景に、出荷台数100万台を突破しました。



AI通訳アプリ「ポケットークApp」

2022年5月に提供開始。  
(iOS版 / Android版)

本アプリは、AI通訳機「ポケットーク」をより身近なスマートフォンで使えるようにしたものです。各アプリストアを通して、グローバルに提供しています。Google Play ベストオブ2022「部門賞」を受賞しています。



### 議事録向けAIサービス

#### 文字起こしAI「オートメモ」

オートメモは、自動での文字起こしと要約で議事録づくりを大幅に省力化するとともに、管理や共有もできる文字起こしAIです。録音、音声のテキスト化、編集、共有がブラウザだけで完結します。PCで直接録音する以外に専用ボイスレコーダー、専用スマホアプリもあります。

精度の高いテキスト化と話者の自動判別で、サッと議事録が完成します。お客様のニーズに応え、アップデートを続けています。

2024年3月 GPT-4を利用した要約機能を追加  
2024年4月 ファイルアップロード機能を追加



アカウント数  
**14万突破**  
2024年4月時点



専用ボイスレコーダー  
オートメモ R(左)  
オートメモ S(右)

専用スマートフォンアプリ  
オートメモ App

### リモート会議用製品

新型コロナウイルスにより、一気に普及したリモート会議の生産性を高める製品で、法人の顧客の開拓を進めています。

カメラ、マイク、スピーカーが一体になった会議用360度webカメラを2製品販売しています。



全員の顔が見える「KAIGIO CAM360」  
「カイギオ カム360」は、AIが会議の参加人数に合わせて画面を自動で分割して映し出します。参加者の表情がわかる一体感ある会議ができます。



話者にフォーカスする「Meeting OWL」  
「ミーティングオウル」は、発言者を自動でフォーカスし、クローズアップ。人数が多めの会議室にむいています。累計出荷台数は3万台を超え、多くの企業に導入されています。



### パソコンソフト

在宅勤務の普及で、セキュリティやビジネスソフト、さらに学習ソフト、教育ソフトなどの需要が拡大しています。

#### ペーパーレス化のニーズに応える「いきなりPDF」



高性能・低価格でPDF作成の常識を変えたロングセラーです。累計導入実績は1万社以上。文書管理の効率アップやコスト削減、テレワークの推進に貢献します。

#### 期限なしのウイルス対策ソフト「ZERO」



ZEROシリーズは「端末固定・期限なし」。入れた端末が使えなくなるまで守り続ける製品です。1台に1本、1回入れれば、セキュリティ対策が完了するため、ウイルス対策の負担を大きく軽減します。

#### 3ブランドの年賀状ソフト



Windows用の年賀状ソフトでトップシェアの「筆まめ」、Mac用でトップの「宛名職人」、そして自社著作の「筆王」と3ブランドのソフトを提供。当社サイトでは、毎年の自動継続版が売上を堅調に伸ばしています。

#### パソコンソフト販売本数 5分野でシェア第1位

2023年1月～12月 第三者機関による有力家電量販店の販売実績の集計結果をもとに「PCソフト」から「ビジネスからOCR・翻訳/PDF」「実用からハガキ/キーボード」「グラフィックからビデオ編集・DVD関連」を抽出しメーカー別数量シェアを自社集計

### ゴルフ用IoT製品

ポケットクやオートメモで培った音声認識技術と、OpenAI社のGPT-3.5turboを組み合わせ、新しい市場に向けて、ソースネクストでは初となるゴルフ関連製品を開発中です。



#### 対話型AIデバイス「BirdieTalk (バーディ・トーク)」

日本初のGPTを利用し音声でアドバイスするゴルフ専用デバイスです。プレー中にボタンを押しながら話しかけるだけで、ライの状況に応じた打ち方や、ミスを減らすための打ち方などが聞けます。(2024年8月末発売予定)

日本初 ゴルフ量販店の売上ランキングTOP5のオンラインショップ、Amazon、楽天、Yahoo、GDO、Googleにおいて延べ845製品を対象にした自社調査(調査期間2024年2月6日～2月20日)

### ユーザーサービス

#### 1800万人を超えるご登録ユーザー

当社は、ダウンロード販売を中心に自社サイトでの通信販売を展開。製品をご購入になり製品登録をされたお客様に、アフターサービスとしてバージョンアップやユーザー割引などのリピート購入を促進しています。ユーザー登録数はのべ1800万人を超え、大きな資産となっています。





# 連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表 (単位:百万円)

| 科目             | 前期<br>2023年3月31日現在 | 当期<br>2024年3月31日現在 |
|----------------|--------------------|--------------------|
| <b>資産の部</b>    |                    |                    |
| 流動資産           | 12,506             | 8,762              |
| うち現金及び預金       | 6,484              | 3,282              |
| うち商品及び製品       | 3,345              | 2,494              |
| 固定資産           | 7,132              | 8,048              |
| 有形固定資産         | 77                 | 140                |
| 無形固定資産         | 3,075              | 3,542              |
| 投資その他の資産       | 3,979              | 4,366              |
| <b>1 資産合計</b>  | <b>19,639</b>      | <b>16,811</b>      |
| <b>負債の部</b>    |                    |                    |
| 流動負債           | 7,404              | 6,329              |
| 固定負債           | 2,331              | 2,092              |
| <b>2 負債合計</b>  | <b>9,736</b>       | <b>8,421</b>       |
| <b>純資産の部</b>   |                    |                    |
| 株主資本           | 8,981              | 7,026              |
| その他の包括利益累計額    | 224                | 1,047              |
| 新株予約権          | 258                | 315                |
| 非支配株主持分        | 438                | -                  |
| <b>純資産合計</b>   | <b>9,903</b>       | <b>8,389</b>       |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>19,639</b>      | <b>16,811</b>      |
| 流動比率           | 168.9%             | 138.4%             |
| 当座比率           | 104.7%             | 83.1%              |
| 自己資本比率         | 46.9%              | 48.0%              |

連結損益計算書 (単位:百万円)

| 科目                          | 前期<br>自 2022年4月1日<br>至 2023年3月31日 | 当期<br>自 2023年4月1日<br>至 2024年3月31日 |
|-----------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <b>3 売上高</b>                | <b>10,347</b>                     | <b>11,334</b>                     |
| 売上原価                        | 5,373                             | 5,230                             |
| <b>売上総利益</b>                | <b>4,973</b>                      | <b>6,103</b>                      |
| 販売費及び一般管理費                  | 7,548                             | 8,375                             |
| <b>営業損失(△)</b>              | <b>△2,574</b>                     | <b>△2,271</b>                     |
| <b>4 経常損失(△)</b>            | <b>△2,537</b>                     | <b>△2,239</b>                     |
| 税引前当期純損失(△)                 | △2,515                            | △2,158                            |
| 法人税等                        | 11                                | 363                               |
| 非支配株主に帰属する当期純損失(△)          | △223                              | △351                              |
| <b>5 親会社株主に帰属する当期純損失(△)</b> | <b>△2,303</b>                     | <b>△2,169</b>                     |

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

| 科目                        | 前期<br>自 2022年4月1日<br>至 2023年3月31日 | 当期<br>自 2023年4月1日<br>至 2024年3月31日 |
|---------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <b>6 営業活動によるキャッシュ・フロー</b> | <b>170</b>                        | <b>△765</b>                       |
| <b>7 投資活動によるキャッシュ・フロー</b> | <b>△999</b>                       | <b>△1,501</b>                     |
| <b>8 財務活動によるキャッシュ・フロー</b> | <b>1,609</b>                      | <b>△1,163</b>                     |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額          | 252                               | 76                                |
| 現金及び現金同等物の増減額             | 1,033                             | △3,353                            |
| 現金及び現金同等物の期首残高            | 5,451                             | 6,484                             |
| 現金及び現金同等物の期末残高            | 6,484                             | 3,130                             |

## ポイント

### 1 資産合計

28億27百万円減少し、168億11百万円となりました。主な要因は現金及び預金の減少32億2百万円、商品及び製品の減少8億50百万円、ソフトウェアの増加11億50百万円によるものです。

### 2 負債合計

13億14百万円減少し、84億21百万円となりました。主な要因は短期借入金の減少7億75百万円、長期借入金(1年内返済予定を含む)の減少5億20百万円によるものです。

### 3 売上高

インバウンド需要の拡大により、店頭販売を中心に「ポケット」の販売数量が増加し、加えて、「オートメモ」や360度webカメラシリーズ、「いきなりPDF」等、主力製品の販売が堅調に推移しました。また、法人向け販売に注力した結果、大型案件の受注も増加いたしました。この結果、売上高は前期比9.5%増の113億34百万円となりました。

### 4 経常損失

原価低減の取り組み等により、売上総利益は61億3百万円と前期比22.7%増となりました。一方で、販売費および一般管理費は、今後のポケット事業拡大のための人件費の増加、当社直販サイトを新システムへ移行することに伴う業務委託費の一時的な増加がありました。また、円安の進行に伴う為替差益2億49百万円と、持分法による投資損失を1億55百万円計上いたしました。その結果、経常損失は22億39百万円(前期経常損失25億37百万円)となりました。

### 5 親会社株主に帰属する当期純損失

非支配株主に帰属する当期純損失が3億51百万円となり、親会社株主に帰属する当期純損失は21億69百万円となりました。

### 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

前連結会計年度は、1億70百万円の収入であったのに対して、当連結会計年度は、7億65百万円の支出となりました。主な要因は、売上債権の増加による支出が8億53百万円増加したことによるものです。

### 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

前連結会計年度と比べ支出が5億2百万円増加し、15億1百万円の支出となりました。主な要因は、ソフトウェアの取得による支出が4億88百万円増加したこと、有形固定資産の取得による支出が13百万円増加したことによるものです。

### 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

前連結会計年度は、16億9百万円の収入であったのに対して、当連結会計年度は、11億63百万円の支出となりました。主な要因は、非支配株主からの払込みによる収入が21億62百万円減少したことによるものです。

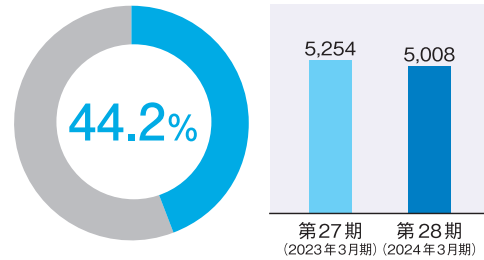
# チャンネル別概況

## オンラインショップ

売上高 50億8百万円(前期比4.7%減)

売上高構成比

売上高(単位:百万円)



当社直販サイトおよびAmazon等の国内ウェブサイトにおけるオンラインショップにおいて、IoT製品やソフトウェア製品を販売しております。

## 営業概況・主な施策

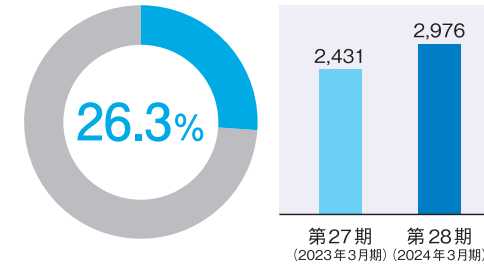
- 当チャンネルでは、Amazonや楽天等の国内ウェブサイトが好調で、販売数量が増加しています。販売製品数の拡充や広告の強化等に取り組んだ結果、国内ウェブサイトにおける売上高が前期よりも増加しました。
- 当社直販サイトでは、パソコン出荷台数の減少や年賀状ソフトの市場全体の縮小、サイト訪問者数の減少等の影響があり、売上高が前期比で減少しました。
- 品揃えの充実や魅力的なイベントの企画、直販サイトにおける購入動線の改善等を実施することで、ロイヤルユーザーの購買頻度の向上および新規ユーザーの獲得を進めております。

## 法人営業

売上高 29億76百万円(前期比22.4%増)

売上高構成比

売上高(単位:百万円)



法人向けに、「ポケットーク」を始めとするIoT製品並びにweb会議関連のハードウェアの販売・レンタル提供や、パソコンソフト・スマートフォンアプリの使い放題サービス等を提供しております。

## 営業概況・主な施策

- 当チャンネルでは、インバウンド需要の急激な回復により、「ポケットーク」の受注が増加しております。主に、インバウンド需要の獲得を狙う企業や自治体からのポケットーク端末の引き合いが多く、加えて、ポケットークアプリの大型案件等も受注しています。結果として、売上高は前期より増加しております。
- 360度webカメラにつきまして、ハイブリッドワークの定着や新製品の発売等により堅調に推移しております。企業側でのオフィス移転や会議室改修の動きに合わせて、導入事例が増加しています。
- 「スマート留守電」につきまして、携帯電話一次代理店経由にて全国携帯電話ショップ500店舗以上で販売しております。

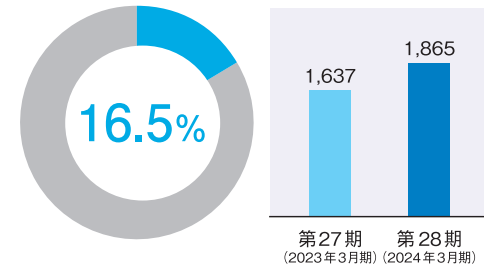


## 家電量販店

売上高 18億65百万円(前期比13.9%増)

売上高構成比

売上高(単位:百万円)



主に全国の家電量販店において、個人ユーザー向けのIoT製品およびパソコンソフト等を販売しております。

## 営業概況・主な施策

- 当チャンネルでは、インバウンド・アウトバウンドの復活により、「ポケットーク」の需要が回復し、家電量販店の店頭における売り場拡充等に取り組んだ結果、売上高が前期より増加いたしました。
- また、360度webカメラシリーズの営業を強化したことにより、販売台数は堅調に推移しております。
- 一方で、パソコン出荷台数の減少や年賀状ソフトの市場全体の縮小に伴い、ソフトウェアについては、厳しい状況が続いております。中古PC市場が伸長していることを踏まえ、新たな収益の柱とするべく、中古PC市場への営業を強化しております。

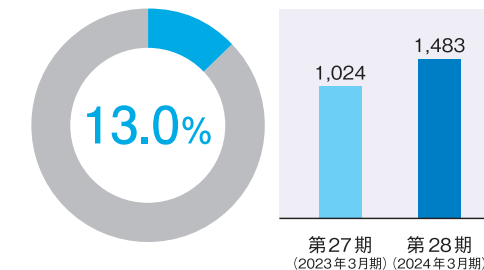


## その他

売上高 14億83百万円(前期比44.8%増)

売上高構成比

売上高(単位:百万円)



米国や欧州の拠点において個人および法人向けに「ポケットーク」の販売を行っております。

## 営業概況・主な施策

- 海外では米国や欧州のAmazonにおける販売および法人への直接販売を中心に「ポケットーク」を販売しており、法人向け販売を中心に、好調に推移しております。
- 特に米国において、教育機関、医療機関、公共機関、その他企業における非ネイティブに向けた多言語対応需要によって大型のリポート購入が進んでいます。その結果、当社孫会社であるPOCKETALK Inc.(米国)では、2024年2月度に営業利益単月黒字化、同社の第1四半期にあたる期間(2024年1月から3月まで)において営業利益四半期黒字化を達成いたしました。



## 富士ソフト株式会社と 資本業務提携契約を締結

### ソフトウェア開発における 高い技術力と幅広い販売網で協業

ポケットーク株式会社は、富士ソフト株式会社と、中長期的なパートナーシップを構築するため、資本業務提携契約を締結しました。なお、同社を引受先とした第三者割当増資金額は10億円で、累計調達額は48.3億円となります。



今後、社会とともに一層取り組むべき課題である「言葉の壁のない世界」の実現に向けて、富士ソフト株式会社と協業します。これにより、開発においては、現製品のアップデートと新製品の開発を加速します。特に法人需要の高いソフトウェアシリーズにおいては、エンタープライズ向けに製品の強化を図るとともに、ユーザーの声を素早く反映すべく、開発体制を強化します。販売においては、継続的で効果的な収益の拡大を目指し、国内外で急速に高まる多言語対応のニーズを的確にとらえ、販売網の拡大を狙います。

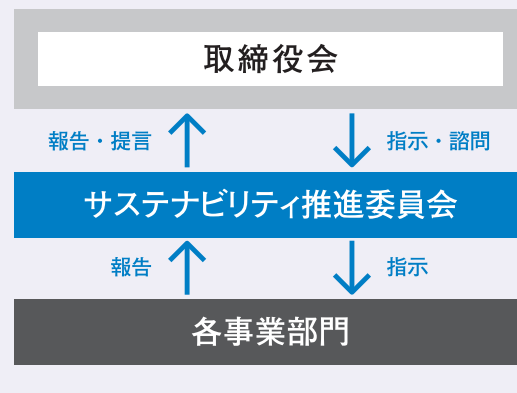
ポケットーク株式会社は、あらゆる人が自国語のみで対話でき、さまざまな国や地域の人々がお互いに深くわかり合える「言葉の壁のない世界」の実現を目指しています。今後もあらゆる「言葉の壁」に着目し、「ポケットーク」シリーズを世界中に広げてまいります。

## サステナビリティ推進委員会

当社グループでは、サステナビリティ課題への対応が事業環境リスクの減少および収益機会の創出につながる重要な経営課題であると認識しており、2023年1月よりサステナビリティ推進委員会を設置し、活動しています。この活動を通じて、当社グループの成長と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

### 委員会の役割

本委員会は、取締役会の下に設置され、当社グループのサステナビリティ方針の決定や各部門を巻き込んだ取り組みの実行、取締役会への報告等を実施します。



24年3月期には、当社グループの取引先も含めて環境保全や人権尊重等に対する規範を示した「ソースネクスト・グループ ビジネスパートナー行動規範」を制定し、主要取引先に対して賛同と遵守を求めました。また、当期より、国際的なESG評価機関であるCDPの質問書にも回答しております。

## よくあるお問合せ

**Q.** 最も人気の高い製品・サービスは何ですか？

**A.** AI通訳機「ポケットーク」および、文字起こしAI「オートメモ」などIoT製品が好評です

「ポケットーク」は2017年12月の発売以来、累計出荷台数120万台を突破（2024年3月時点）。米国においては、非ネイティブへの多言語対応のために、教育機関や医療機関、公共機関等での採用が加速しています。また「ポケットーク」で培った音声認識技術を活かして、録音した音声文字起こしするAI「オートメモ」は、音声認識精度向上や要約機能の実装など、改善を続けており、サービス利用アカウント数が14万を超えるなど、ご好評いただいています。

**Q.** 株主還元策はどのように考えていますか？

**A.** 安定的に配当する方針を堅持しています

業績、配当性向および中長期の企業成長に必要な投資額などを総合的に考慮し利益配分を基本方針としております。これまで10から15%の配当性向にて配当を実施してまいりました。しかしながら、当期は21億69百万円の当期純損失を計上しております。業績の回復に全力を注ぐとともに、中長期的な成長を支える基盤を立て直していくため、誠に遺憾ではございますが当期につきましては無配を予定しております。株主還元施策として導入した株主優待制度に関しましては、引き続き実施いたします。保有いただいている株数に応じて、当社サイトでの購入の際にご利用できるソースネクストポイント（特典ポイント）を進呈いたします。

**Q.** 今後の事業戦略は？

**A.** インバウンド需要の拡大に向けて「ポケットーク」端末の拡販及びビジネス向け製品やAIに特化した新製品など、製品ラインナップを拡充します

日本国内においては、急速に拡大しているインバウンド需要を獲得するべく「ポケットーク」端末の店頭での露出を増やし、販売数量増加を図ります。また、海外においては、多言語対応需要の大きい米国において、さらなる認知度向上や販路の拡大を進めます。加えて、ソフトウェアで同時通訳ができる「ポケットーク ライブ通訳」なども、主に法人に向けて拡販していく予定です。360度カメラ「カイギオ カム360」や、文字起こしAI「オートメモ」などのIoT製品、ビジネス用ソフトウェアは今後も製品ラインナップおよび機能を拡充していくとともに、生成AIなどの新たな技術を活用した新製品の開発・販売も積極的に進めてまいります。

**Q.** コンプライアンス体制の構築はされていますか？

**A.** コンプライアンス重視の風土を築いております

当社の理念「世界一エキサイティングな企業になる」では、エキサイティングを「正しい、喜ばれる、面白い」と定義し、正しさを求める風土を醸成しています。また、勤務形態を問わず入社時と年に1度の研修やテストの履修を義務づけるほか、社員で構成される委員会活動などで教育をしております。さらに、法令上疑義のある行為は、全従業員が匿名で当社と利害関係のない独立機関を通じて会社に報告できる通報窓口を設置、運営しています。